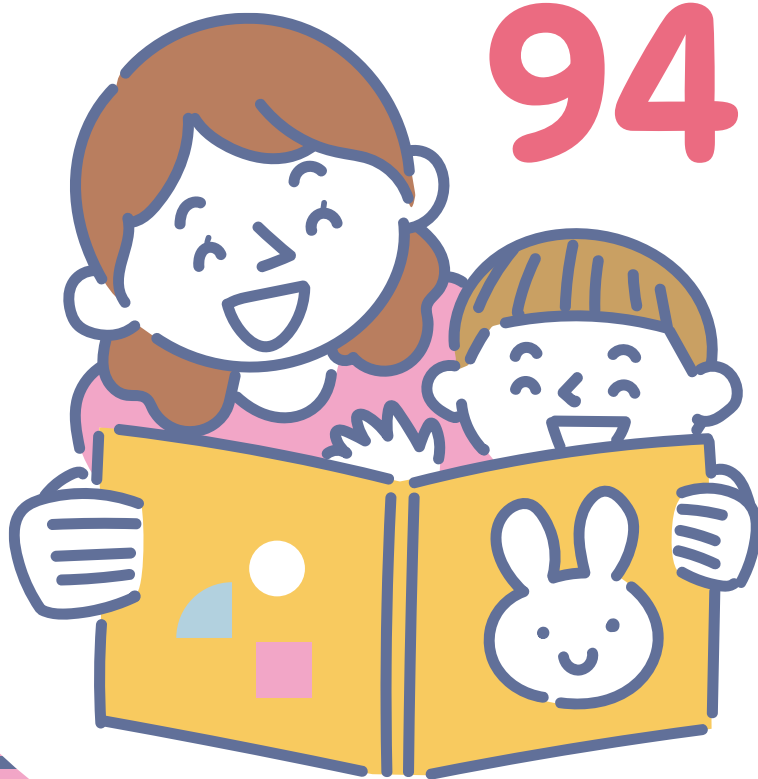


どのほん よもうかな

0歳から5歳 親子で楽しむ

94冊



ごあいさつ

群馬県教育委員会では、未就学の子どもたちがたくさんの本に出会うきっかけとなることを願って、ブックリスト「どのほんよもうかな ～0歳から5歳 親子で楽しむ94冊～」を作成しました。

読み継がれている良書や興味を持って楽しめる本、「あそび」や「自然科学」など年齢に合った内容の本があります。巻末の「読み聞かせのヒント」も参考にいただき、お子さんとふれあいながらの読み聞かせを通して、絵本を楽しんではいかがでしょうか。

このブックリストで紹介している94冊の本は、県内の保育所等や図書館、読み聞かせボランティア団体、そして県民の方から、未就学児に読んであげたい本を挙げていただき、その中で、多くの方がすすめる本を中心に選んだものです。



はじめに

親子で楽しむ読み聞かせ

親子で読み聞かせを楽しむ時間は、かけがえのないものです。子どもにとっては、絵本を楽しむのと同時に、親の愛情を肌で感じるひとときでもあるのです。なお、絵本の優しい言葉やリズムは、親の心をも穏やかにしてくれます。ときには、聞き入っている子どもの心の動きが垣間見えたり、成長を感じられたりすることもあるでしょう。

読み聞かせは、親子の絆をより深めてくれるものです。小学生になり1人で本が読めるようになって、3、4年生くらいまでは読み聞かせも続けることをおすすめします。なぜかという、3、4年生は絵本から童話へ（もちろん、絵本は何歳になっても楽しめるものですが）移行していく年代で、文字ばかりの本を1人で読んで楽しむということは、大人が想像する以上に難しいからです。文字が読めるということと、お話を楽しめるということは一緒ではないのです。読んでもらう楽しさと1人で読む楽しさは、全く別のものであるということも心に留めておいてください。

また、読み聞かせは、読んであげているときだけのものではありません。将来、子どもが自分の足で人生を歩み始めたときに、さまざまな壁にぶつかり、挫折感に打ちのめされることもあるでしょう。そのときに必要なのが、物語体験ではないかと思えます。「あの本の主人公は、こう乗り越えたな」「こんな考え方もあるのか」などと、子どもは、多くの物語の中から生きるヒントを得るに違いありません。さらに、読み聞かせの親の温かい声やぬくもりは、子どもの心の奥深くにいつもあって、子どもを守り続けることと思えます。読み聞かせは、子どもを生涯にわたって支えてくれるものです。



このブックリストは…

★ 次の3つの年齢区分にわけて絵本を紹介しています。

0・1歳から …… 身の回りの見たことのあるものが絵本の中に描かれていると興味を示す。
絵は、はっきり、明るく、温かく描かれているものがよい。

2・3歳から …… 簡単なストーリーを楽しめるようになる。
じっとお話を聞くことやお話そのものを楽しめるようになってくる。

4・5歳から …… 子どもが夢中になれ、興味をもてるジャンルの本や想像力をはたらかせて楽しめる本がよい。

★ 本の紹介の後に、「読み聞かせのヒント」を掲載しています。ぜひ、参考にしてみてください。

※
この年齢区分は
目安です。

読む本に年齢制限はありませんので、興味・関心に合わせて選んでください。



だるまさんが

作：かがくいひろし
出版社：ブロンズ新社

子どもたちになじみ深いだるまさんが転んだ遊びのフレーズに合わせて、だるまさんが、子どもたちの大喜びするようないろいろな動きを見せてくれます。「だるまさんが…」のフレーズを言った後の子どもたちの期待に満ちたまなざしが印象的です。（「だるまさんシリーズ」の第一作目です。）



いないいないばあ

文：松谷みよ子
絵：瀬川康男
出版社：童心社

ページをめくると動物たちが「いないいないばあ」をしています。「ばあ」の言葉と一緒にページをめくると大喜び間違いなし。赤ちゃんが大好きないないいないばあが、リズムカルな言葉と温かい絵で繰り返されます。赤ちゃんと一緒にいないいないばあ遊びを楽しんでみてください。



くっついた

作：三浦太郎
出版社：こぐま社

「くっつく」という言葉から、連想されるイメージはどんなものがあるでしょう。寄り添うこと、つながること、それらはどれも心がふわっとすることではないでしょうか。やさしい挿絵のタッチと相まって、お子さんと何度も味わいたい一冊です。最後にくっつくのは、やはり…。間違いのない幸せのかたちですね。



いろいろばあ

作：新井洋行
出版社：えほんの杜

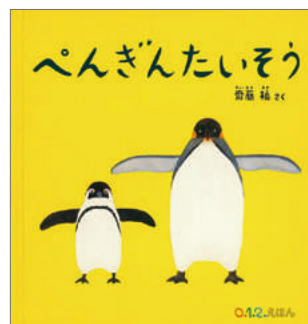
絵の具のチューブたちが絞り出した様々な形と色を組み合わせ、お話が進んでいきます。「この色を混ぜ合わせると、どうなるかな？」とお子さんと話し合いながら読み進めると、より一層楽しさが増すかもしれません。チューブの絞り出しの音も独特なので、ぜひ、声に出して一緒に読んでみてはいかがでしょうか。



かお かお
どんなかお

作：柳原良平
出版社：こぐま社

人の表情について、様々な見方ができる絵本です。目、鼻、口を単なる顔のパーツとしてとらえるのではなく、その組み合わせが生み出す表情から、豊かな感情を読み取れることを考えられる本になっています。お子さんの豊かな情操をはぐむためにも、ぜひ、読んでほしい一冊です。



ペンギんたいそう

作：齋藤楨
出版社：福音館書店

ペンギンが親子で体操をするお話です。いろいろな動きをする中で、大人のペンギンと子どものペンギンが繰り返す自然体の体操に心が穏やかになること間違いなしです。体操の最後には、読み手に対してペンギンたちの粹な返しがあるのも魅力です。何度も読み返したくなる、そんな一冊です。



ごぶごぶ ごぼごぼ

作：駒形克己
出版社：福音館書店

「ぶくぶくぶくん」「どおん」などの音とともに、小さいまる、大きいまる、色鮮やかなまるがあらわれます。穴の開いているまるに指を入れたり、穴からのぞいたりして、遊べるように作られた丈夫なボード版の絵本です。赤ちゃんは体をゆすって喜びます。



たまごのえほん

作・絵：いしかわこうじ
出版社：童心社

ページをめくるといろいろな形のたまごがあらわれます。ページを広げてたまごの殻を剥がしていくと…とてもかわいい動物の赤ちゃんが産まれてきます。「こんにちは あかちゃん」しかけをめくると生き生きと産まれてくるあかちゃんに、産まれるってとってもいいなと感じられる絵本です。



ぴょーん

作・絵：まつおかたつひで
出版社：ポプラ社

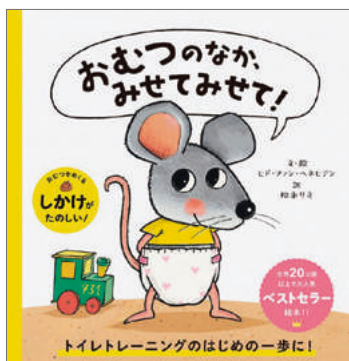
いろいろな動物が次々にジャンプするお話です。それぞれ飛び方にも個性があって、つい、何度も読み返してしまいたくなるような本です。「この動物はどんなふうに飛ぶのかな？」とお子さんと一緒に考えながら読み進めると面白いかもしれません。読み終えた後には、自分もジャンプがしたくなるかも。



じゃあじゃあ
びりびり

作・絵：まついのりこ
出版社：偕成社

ページをめくるとまず、鮮やかに描かれた絵が印象的です。「みず じゃあじゃあじゃあ」などあかちゃんが大好きな擬音語で、いろいろなものの様子を生き生きと表現しています。楽しみながら、もの様子をを知ることができる絵本です。



おむつのなか、
みせてみせて!

文・絵：ヒド・ファン・ヘネヒテン
訳：松永りえ
出版社：パイ インターナショナル

知りたがりやのネズミくんは、いろいろなことに興味しんしん！みんなのおむつの中にも興味しんしん！実際におむつをめくる仕掛けを楽しみながら、ウサギはコロコロうんち、イヌはうずまきみたいなひとつだけのうんち…と、動物のうんちの違いを知ることができる絵本です。トイレトレーニングのはじめの一歩に。



くだもの

作：平山和子
出版社：福音館書店

いろいろなくだものが描かれています。おいしそうな挿絵のため読んでいて思わず、つばを飲み込んでしまうかも知れません。食べやすいように「どうぞ。」と差し出されて、食べるくだものは本当においしいものです。最後に出てくるくだものは、読み手に対しての投げかけとなっており、この本ならではの魅力の一つです。



ぼんちんぱん

作：柿木原政広
出版社：福音館書店

「ぱんぱんしょくぱん ぼんちんぱん」と、リズムカルに読み聞かせを楽しめます。出てくるいろいろなパンをちぎると…楽しい顔のできあがり。ページをめくるたびにあらわれる豊かなパンの表情を、お子さんと一緒に楽しめるユニークな写真絵本です。



おべんとうバス

作・絵：真珠まりこ
出版社：ひさかたチャイルド

ハンバーグやえびフライなどいろいろな食材がバスに乗り込んでいく本です。みんなでお出かけするのはとても楽しいイベントのため、乗り遅れてしまうことがないように確認する場面も、とても魅力的です。しかし最後にみんなで、どこに出かけるのか…。バスの行き先が気になる、そんな絵本です。



もこもこもこ

作：たにかわしゅんたろう
絵：もとながさだまさ
出版社：文研出版

挿絵の配色や、簡単な図形、それと同様に擬音を効果的に活用してお話が進行していく絵本です。「しーん」から始まり、最終的に「もこ」と絵本の冒頭の場面に戻るため、何度も繰り返し味わえる仕組みになっています。言葉を多く知らなくても、お子さんと一緒に楽しめる一冊です。



がたんごとな
がたんごとな

作：安西水丸
出版社：福音館書店

「のせてくださーい」の声を掛けると表紙に描かれている真っ黒い汽車が乗せてくれるお話です。がたんごとのリズムが心地よく、いろいろなものから声が掛かり、そのたびに停車としては動き出す汽車。終点で降ろされた場所はどこなのか、ワクワクしながら読んでほしい一冊です。



かんかんかん

文：のむらさやか
制作：川本幸
写真：塩田正幸
出版社：福音館書店

かんかんかんの音とともに、いろいろな列車がふみきりを渡っていくお話です。最初は「んまんまれっしゃ」つぎに「ぶうぶうれっしゃ」が通っていきます。一番最後に通る列車は一体、どんな列車なのか…。答えが気になりますね。ぜひ、お子さんと一緒に答え合わせをしてみてください。



どうぶつのおかあさん

文：小森厚
絵：藪内正幸
出版社：福音館書店

動物のお母さんが、子どもを連れて歩く姿が静かに写実的に描かれています。犬や猫のお母さんは子どもをくわえて運び、ゾウのお母さんは子どもを鼻で押して歩かせます。どのお母さんの目も優しさに満ちていてお母さんと一緒にいる子どもの安心感が伝わってきます。子どもと大人の心を穏やかにしてくれる上質な絵本です。



ととけっこう
よが あけた

案：こばやしえみこ
絵：ましませつこ
出版社：こぐま社

元気なニワトリさんが、「ととけっこう よが あけた」と言いながら、いろいろな動物の子どもたちを起こして歩きます。リズムカルに読んだり、お子さんの名前を当てはめて読んでみたりとアレンジすることで、楽しい朝を迎えられるような絵本です。



おつきさま
こんばんは

作：林明子
出版社：福音館書店

穏やかなお月さまの表情が印象的な絵本です。途中で登場する雲の表情が読めないところや、挿絵に描かれている二匹のねこの動きが、お話のカギになっているのも魅力ではないでしょうか。夜の空を見上げる楽しさを私たちに伝えてくれる、そんな一冊です。満月の夜に、ぜひ、お子さんと味わってみてください。



ノンタン
ぶらんこのせて

作・絵：キヨノサチコ
出版社：偕成社

ノンタンがブランコに乗っていると、「ブランコのせて」と、次々にいろいろな動物がやってきます。でも、ノンタンはブランコをかしてあげられず、みんなはおこってしまいました。その後みんなとノンタンは…。みんなで仲良く遊ぶっていいねという気持ちになる絵本です。（「ノンタンシリーズ」の第一作目です。）



おひさま あはは

作：前川かずお
出版社：こぐま社

おひさま、木、鳥などいろいろなものの笑顔を見られる絵本です。ただ、お話の途中で笑えなくなってしまった「あるもの」が登場します。どうやったら、その「あるもの」を笑顔にできるのでしょうか。その方法はとてもシンプルでした。日常の中で使える笑顔の魔法に、お子さんと一緒に触れてみてはいかがでしょうか。



どんどこ
ももんちゃん

作・絵：とよたかずひこ
出版社：童心社

ももんちゃんのぶよぶよした感じは赤ちゃんにそっくり。どんどこ、どんどこ、ももんちゃんが急いで走っていきます。川を渡り、山を登って、下って、どこに急いでいるのかな？楽しく、リズムのよい言葉の繰り返しと温かみのある絵。ももんちゃんは子どもにもママやパパにも愛されています。



ブレイクタイム

絵本の選び方 ①

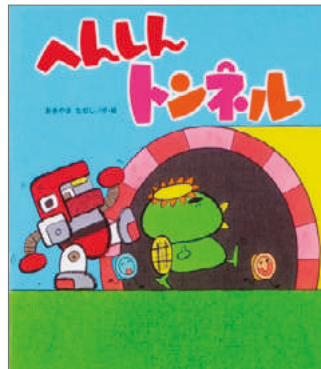
読み聞かせの絵本を選ぶときには、お母さんやお父さんが好きな絵本を読んだり、ブックリストを参考にしたり、図書館員さんにアドバイスをもらったりするのもよいでしょう。図書館などの「おはなし会」に参加してみることもいいですね。みんなで一緒にワクワク、ドキドキしながら楽しむと、今までと違ったジャンルの絵本も好きになることも多いです。子どもの個性や好みがそれぞれ違うように、本にも個性がありますから、簡単にうまく選ぶコツなどないのかもしれないかもしれません。親子で、いろいろな絵本を楽しんでいく中で、大好きな絵本が増えていきますよ、きっと。



きんぎょが にげた

作：五味太郎
出版社：福音館書店

金魚鉢から逃げた赤い金魚。金魚はカーテンの赤い水玉模様など、次から次へと絵本のカラフルな絵の中に上手にかくれてしまいます。子どもたちは「見つけた!」と声を上げ、かくれる金魚を指さします。何度読んでも、楽しく遊びながら読める絵探し絵本です。



へんしんトンネル

絵・作：あきやまただし
出版社：金の星社

不思議なトンネルをくぐると、かっぱは元気な馬に、時計は毛糸に変身してしまいます。最初は「何で?」と思っている子どもたちも、言葉遊びのしかけに気付くと、ページをめくる前に何になるのかを予想したり、一緒になって声に出して読んだり盛り上がること間違いなしです。



ぜったいにおしちゃダメ?

著：ビル・コッター
出版社：サンクチュアリ出版

この本のたった1つのルール。それは「このボタンを押しちゃダメ」ということ。しかし、不思議なモンスターが「押したらどうなるだろう」「押しちゃいなよ」と誘惑してきます。ボタンを押してしまうと次々とおもしろいことが!!好奇心をくすぐり、子どもたちは大笑い。「また読んで」とせがまれるとても楽しい絵本です。



うずらちゃんのかくれんぼ

作：きもとももこ
出版社：福音館書店

「もう いいかい」「まあだだよ」うずらちゃんとひよこちゃんが仲良くかくれんぼ。上手にかくれているよ、みつかるかな! 風が吹いたり、雨が降ったりして、そんなかくれんぼの行方は…。とても素敵な鮮やかな色使いと、生き生きとした挿絵に、子ども達も引き込まれます。



たまごのあかちゃん

文：かんざわとしこ
絵：やぎゅうげんいちろう
出版社：福音館書店

「たまごのなかで かくれんぼしている あかちゃんは だあれ? でておいでよ」卵に向かって呼びかけると、卵の中から次々と、いろいろな生き物の赤ちゃんが飛び出します。何が飛び出してくるか分からないドキドキやワクワク感、命が誕生する喜びや幸せを、ぜひ、子どもたちと一緒に楽しんでください。





おおきなかぶ

再話：A・トルストイ
 訳：内田莉莎子
 画：佐藤忠良
 出版社：福音館書店

おじいさんが植えたかぶは、とても大きなかぶに育ちました。でも、いざ抜こうとすると、抜けません。おじいさんは、おばあさんをおばあさんは孫を、孫は犬を、犬は猫を、猫はネズミを呼んで来て、「うんとこしょ、どっこいしょ…」お子さんと一緒に声を出しながら絵本を楽しんでください。



はみがきれっしゃ しゅっぱつしんこう!

作：くぼまちこ
 出版社：アリス館

歯ブラシが、かわいい列車になって歯磨きをしていきます。歯磨き列車がやってくれば、どんな子も口をあーんと開きます。前の歯、奥の歯の汚れも一つ一つとって、とっても気持ちいい！歯磨きを楽しむ気持ちになれる絵本です。



ぶくちゃんのすてきなぱんつ

作：ひろかわさえこ
 出版社：アリス館

ぶくちゃんは、お母さんの買ってくれた、すてきなぱんつをはいてトイレに挑戦しますが、あともう少しのところでき失敗ばかり。でも、その度にお母さんにはにっこり笑って「だいじょうぶ、ほうらね。おかわりぱんつ」と言って、すてきなぱんつを差し出してくれます。大丈夫、大丈夫と言われて子どもは安心して少しずつ成長していくんですね。



しろくまちゃんのほっとけき

作：わかやまけん
 もりひさし
 わだよしおみ
 出版社：こぐま社

子どもたちはホットケーキが大好き。そんなホットケーキをしろくまちゃんが作ります。卵を割って、牛乳を入れて、材料をかき混ぜて、フライパンで焼いて…ほかほかのホットケーキが完成！そして、こぐまちゃんを呼んで、二人でおいしくいただきます。シンプルな絵とお話に、ワクワクが詰まった一冊です。



あおくと きいろちゃん

作：レオ・レオ二
 訳：藤田圭雄
 出版社：至光社

仲良しのあおくときいろちゃん。出会った二人は緑色になってしまいました。お家に帰ると、パパとママはその子があおくときいろちゃんだと分かりません。悲しくて泣いた涙で二人はまた元の姿に。色の变化やちぎりに幼い子どもはとても興味を示します。自分をあおくときいろちゃんに同一視して楽しんでいるようです。





でんしゃは
うたう

文：三宮麻由子
絵：みねおみつ
出版社：福音館書店

電車が駅を出発してから次の駅に止まるまでの様子を、先頭車両の一番前から見える景色と音だけで忠実に描いた絵本です。「ぶしっ ごろー」「どたとおーん」「たたっ つつっつ たたっ つつっつ」などのユニークな擬音に子どもたちは夢中になります。読んだ後、電車に乗って「うた」を聞いてみるのも楽しいかもしれません。



せんろはつづく

文：竹下文子
絵：鈴木まもる
出版社：金の星社

子どもは線路をつなげての電車遊びが大好き。野原の真ん中で線路をどんどんつなげていって、山にトンネルを掘り、川には橋をかけて…その線路の上を列車が走ります。みんなを乗せて、どこまでも、どこまでも。子どもの想像を大きく広げてくれる絵本です。親子で一緒に楽しんでください。



ぐりとぐら

作：なかがわりえこ
おおむらゆりこ
出版社：福音館書店

料理することと食べることが好きな野ねずみのぐりとぐらは、森で大きな卵を見つけ、カステラを作ることにしました。その場で料理すると、カステラを焼く香りにつられて、森じゅうの動物たちが集まってきます。美しい自然を描いた絵の中で、ぐりとぐらが生き生きと動き回る様子に引き込まれてしまう絵本です。



わたしの
ワンピース

絵と文：にしまきかよ
出版社：こぐま社

空から落ちてきた真っ白い布で作ったワンピース。それを着てうさぎさんは散歩に出かけます。すると、あら不思議。お花畑を通ると白いワンピースが花模様、雨が降ると水玉模様にと、次々と模様が変わっていきます。「ラララン ロロロン」の歌もかわいい、夢いっぱいの絵本です。



はらぺこ
あおむし

作：エリック・カール
訳：もりひさし
出版社：偕成社

ある日、たまごから出てきたはらぺこあおむしは、もりもり食べ物を食べていきます。力強いあおむしの成長の様子を、カラフルで魅力的な絵、あおむしの食べたあとの絵本の穴など、遊び心いっぱいの表現を通してお子さんと一緒に楽しく読める絵本です。



ブレイクタイム

読み聞かせを楽しもう

読み聞かせは、子どもを本好きにするための手段ではありませんが、楽しく続けていくうちに、子どもが本に興味を持ったり、本を好きになってくれたりします。読み聞かせは、人生をより豊かにしてくれる本の世界の扉をあけてあげることでもあるのです。また、子どもは、気に入った絵本は何度も何度も繰り返し読みたがります。そのような絵本は、どうぞ購入して、その子専用の小さな本箱を作ってみたいかがでしょう。読みたいと思ったときに、すぐ読めるような環境を整えてあげることも大事です。一冊、一冊と、少しずつ増えていく大切な絵本には、家族の歴史も刻まれていくことでしょう。



めつきら
もつきら
どおんどん

作：長谷川摂子
画：ふりやなな
出版社：福音館書店

かたが、お宮にある大きな木の根っこの穴から落ちて訪れた国は、何ともへんてこな世界。そこの住人“もんもんびやっこ”たち三人と仲良しになり、時のたつのを忘れて遊び回ります。遊び疲れて眠った三人のそばで、心細くなったかたが「おかあさん」と叫ぶと…。躍動することばと絵が楽しいファンタジーの絵本です。



たまごにいちゃん

作・絵：あきやまただし
出版社：鈴木出版

たまごにいちゃんは弟がひよこになっても、たまごの中。たまごのままがいいと思っています。でも、ある日、岩にぶつかって殻が割れてしまいます。水たまりで見た自分の姿は思ったよりカッコいい姿でした。成長する子どもの心の揺れをユーモアたっぷりに描いた絵本です。（「たまごにいちゃんシリーズ」の第一作目です。）



ばけばけばけばけ
ばけたくん

文・絵：岩田明子
出版社：大日本図書

おいしい坊なおばけの子「ばけたくん」が、子どもの大好きなチョコバナナやかき氷などを食べていくと、次々に食べたものに「ばける」お話です。見た目の色鮮やかさと面白い姿形、リズム感のある言葉がとても楽しい絵本です。



14ひきのひっこし

作：いわむらかずお
出版社：童心社

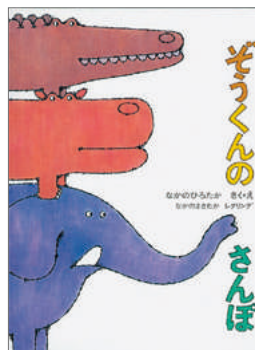
14ひきのねずみの家族は、みんなで新しい家を探しに行きます。新しい家が見つかり、協力して水道や橋をつくりました。食べものもたくさん集めました。ねずみたちは引っ越しをし、みんながそれぞれの役割を果たしながら家づくりが進んでいきます。美しい自然や家族それぞれの様子が丁寧に描かれた心温まる絵本です。（「14ひきシリーズ」の第一作目です。）



わにわにのおおけが

文：小風さち
絵：山口マオ
出版社：福音館書店

わにわにが、「かみ」と「のり」と「ハサミ」を見つけ、作業を始めました。「何を作るのかな」と思いながら読み進めると、どうしたことか、ハサミで指の先をほんの少し切ってしまいました。あわてて薬を塗って包帯をぐるぐる巻いたわにわには、作業を再開しました。さて、わにわにが作ったものはなんだったのでしょうか？



ぞうくんのさんぽ

作・絵：なかのひろたか
レタリング：なかのまさたか
出版社：福音館書店

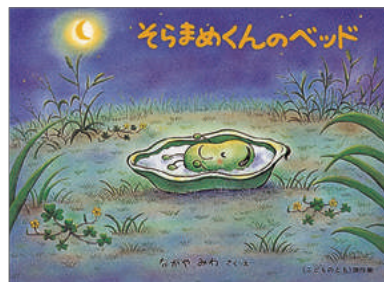
ある天気の良い日、ぞうくんはお散歩にでかけます。途中、お友達のかばくん、わにくん、かめくんと出会い、一緒に散歩をすることになりました。みんなぞうくんの背中に乗せてもらいます。力持ちのぞうくんでもさすがに重くて「どっばーん」、転んでみんなは池の中に。それでも、みんなはご機嫌です。



しろくまのパンツ

作：tupera tupera
出版社：ブロンズ新社

はいていたパンツをなくしてしまったしろくまさん、ねずみさんと一緒にパンツを探します。カラフルで、いろいろな模様のパンツが出てきます。次々に出てくるパンツに「誰のパンツだろう？」わくわくしながら見てしまいます。でも、しろくまさんのパンツはじつは…。最後にはくすっと笑ってしまうかわいい絵本です。



そらまめくんのベッド

作・絵：なかやみわ
出版社：福音館書店

そらまめくんの宝物は、ふわふわでやわらかいベッドです。友達から頼まれても、自慢のベッドは貸しません。ある日、ベッドがなくなってしまう。困り果てるそらまめくん。やっと、見つけたベッドにはうずらが卵を生んでいたのです。さて、そらまめくんはどうするでしょうか。お友達ができたなら読んであげたい絵本です。



てぶくろ

絵：エウゲーニー・M・ラチョフ
訳：うちだりさこ
出版社：福音館書店

おじいさんが雪の森で手袋を落としました。そこにねずみがやって来て、手袋の中に住み始めます。さらに、かえる、うさぎなどいろいろな動物も次々に仲間入り。やがておじいさんが手袋を探しに来て、一体どうなることやら。手袋がだんだんお家のように変わっていく様子がとても楽しくほほえましい物語です。



ねずみくんのチョッキ

作：なかえよしを
絵：上野紀子
出版社：ポプラ社

おかあさんが編んでくれたチョッキを自慢げに着ているねずみくん。そのチョッキを「ちょっときせてよ」と動物の仲間たちが次々と着ていきます。「すこしきついがにあうかな？」の繰り返しや動物たちの表情が面白くて思わず笑ってしまいます。最初と最後のねずみくんの表情の違いがちよっと切ない一冊です。



のせて のせて

文：松谷みよ子
絵：東光寺啓
出版社：童心社

まこちゃんが自動車を運転しています。途中で動物たちが乗り込みます。次はどんな動物かな。そして「びゅーん」と走りまわります。暗い暗いトンネルにも入り、ページをめくると「でた！おひさまだ！」。ドキドキする展開と「ストップ！」「のせてのせて」の繰り返しが楽しい絵本です。



ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ

作：マーガレット・ワイズ・ブラウン
絵：林明子
文：坪井郁美
出版社：ペンギン社

「ぼく」はおばあちゃんの家へ、初めて一人で向かいます。電話で教えてもらったとおり、田舎道をまっすぐまっすぐに。途中、いろいろな“はじめて”に出会いますが、ぼくは臆せず歩きます。「ここがおばあちゃんのおうちかな？」最後にのぞいたお家で待っていたのは…。文は「ぼく」のセリフのみで「絵が語る」一冊です。



もりのお風呂

作：西村敏雄
出版社：福音館書店

森のお風呂にライオンがやってきて、体を洗い始めます。そこへゾウがやってきたので、ライオンはゾウに背中を洗ってもらいます。ワニ、ブタと次々に動物がやってきて、最後にみんなで輪になり、前の動物の背中を流します。お湯をザブーンとかけ合い、お風呂へドボンと入り、みんなでお風呂に入るのが楽しくなる絵本です。



ぼんたの
じどうはんばいき

作：加藤ますみ
絵：水野二郎
出版社：ひさかたチャイルド

ぼんたが作った自動販売機にはいろいろな動物がやってきます。葉っぱを入れると、後ろにかくれたぼんたがリズムカルな呪文を唱え、ほしいものを出してくれます。そこへあらわれたぬぎの女の子、自動販売機に何を注文するのでしょうか。とても心温まるお話です。



だるまちゃんと
てんぐちゃん

作・絵：加古里子
出版社：福音館書店

だるまちゃんは、友達のとんぐちゃんの持ち物をなんでもほしがります。うちわ、帽子、履き物、そして鼻まで。お父さんのだるまどんは、そのたびに奮闘していろいろと集めてきます。ページをめくりながら、お気に入りを選ぶ楽しさも味わえる絵本です。



こんたのおつかい

作・絵：田中友佳子
出版社：徳間書店

おつかいを頼まれたこんたは、普段通らない道を通ってお店に向かいます。その道を通ると…次々とドキドキすることが起こります。こんたは無事頼まれたものを買えるでしょうか。迫力のある絵で繰り広げられるワクワクする展開が楽しめます。



しんせつな
ともだち

作：方軼羣
訳：君島久子
画：村山知義
出版社：福音館書店

食べものがない寒い冬、空腹のうさぎが、かぶを二つ見つけました。一つだけ食べ、もう一つを空腹ならば届けますが、留守でした。そこで、うさぎはろばの家にかぶを置いて帰りました。帰ってきたらばは、かぶにびっくりしますが、今度はかぶを山羊に届けました。思いやりの心を乗せたかぶが、動物たちのもとをめぐる友情ストーリー。



こわくない
こわくない

文：内田麟太郎
絵：大島妙子
出版社：童心社

まーくんは、このごろ反対のことばかり言います。かあさんが「ねんねしよ。」と言っても「ねんねしない。」そんなまーくんの夢の中にいろいろなこわいおばけがあらわれますが、まーくんは「こわくない。こわくない。」でも、最後には涙を見せるまーくん。成長の中で子どもが見せる心温まる一面を感じられる絵本です。



100かいだてのいえ

作：いわいとしお
出版社：偕成社

見開きページを縦長に使った迫力ある描かれ方に引き込まれる絵本です。10階ずつ描かれた家の中には10階ごとにいろいろな動物が住んでいます。それぞれの動物の特徴に合わせた工夫した家の作りや生活の様子が、ポップな絵で細かく描かれています。100階まで階段をたどりながら見ていくと、とてもワクワクします。



どうぶつサーカス はじまるよ

作：西村敏雄
出版社：福音館書店

子どもが大好きな動物たちが、サーカスを繰り広げるお話です。ライオンの火の輪くぐり、カンガルーの棒回し、ワニの組み体操などなど、観客は大喜び。ところが、最後の猿の空中ブランコは、ケガのため中止となり、観客は大ブーイング。さて、司会のアザラシさんはどうする？ 愉快的動物たちのサーカスをお楽しみください。



ねこはるすばん

作：町田尚子
出版社：ほるぶ出版

人間の留守中に、ねこは何をしているでしょうか。天気にも恵まれ、ヒゲの向くまま、気の向くままに、ねこは出かけます。カフェで喉を潤したり、身だしなみを整えたり。まるで私たち人間の休日のようにも思えてきます。充実した一日を過ごしたねこ。ねこの意外な一面に、出会うことができる絵本です。



三びきのやぎの がらがらどん

絵：マーシャ・ブラウン
訳：せたていじ
出版社：福音館書店

ある日、大きさの違う三匹のやぎが、草を食べに山に登っていきましました。途中、橋で恐ろしいトロールに出くわし…。さあ、やぎたちは無事にこの危機を乗り越えることができるでしょうか。子どもたちは本を読み進めながらハラハラ、ドキドキ。北欧民話を題材にした、長く読み継がれている一冊です。



おおかみと七ひきのこやぎ

作：グリム
絵：フェリクス・ホフマン
訳：せたていじ
出版社：福音館書店

今日は、七匹のこやぎたちが初めてお留守番をする日です。おおかみの「しわがれ声」や「黒い足」をしっかり見抜いて、おおかみを追い払うこやぎたち。しかし、あの手この手でこやぎたちをだまそうとするおおかみ…。楽しい読み聞かせを通して、お留守番についても考えられる魅力的な作品です。



さんまいのおふだ

再話：水沢謙一
画：梶山俊夫
出版社：福音館書店

「小僧はうまそうだな。」山の中の一軒家で恐ろしい鬼婆と出会った寺の小僧。便所に逃げこんだ小僧は、親切な便所の神様から三枚の不思議な札をもらいます。大山を作る札、大水を呼ぶ札、大火事を起こす札。しかし、なおも鬼婆は、追ってきます。最後に小僧を救ったのは…。スリルとユーモアがたっぷりの作品です。

ちょっとだけ



ちょっとだけ

作：瀧村有子
 絵：鈴木永子
 出版社：福音館書店

弟が生まれお姉さんになったなっちゃん。赤ちゃんのお世話で忙しいお母さんを見て、いろいろなことを自分一人ががんばります。着替える、髪を結う、ブランコをこぐ…。でも、眠い時はやっぱりまだお母さんに甘えたい。ちょっとだけ抱っこしてほしいと言うなっちゃんに、お母さんはどう答えたでしょうか。

はじめてのおつかい



はじめてのおつかい

作：筒井頼子
 絵：林明子
 出版社：福音館書店

みいちゃんはママに頼まれて牛乳を買いに出かけます。自転車にベルを鳴らされてどきんとしたり、坂道で転んでしまったり…。お店についても、お店にはだれもいません。みいちゃんは深呼吸をして、「ぎゅうにゅうください」と言います。でも、小さな声しかできません…。小さな女の子の心の動きを鮮やかに描いた絵本です。

おしっこちょっぴりもれたろう

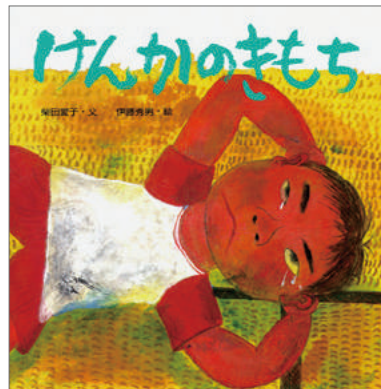


おしっこちょっぴりもれたろう

作・絵：ヨシタケシンスケ
 出版社：PHP 研究所

パンツにおしっこがちょっぴりもれちゃうぼく。きっと同じ悩みを持った人はいるはずだと探しに行くと、みんないろいろな悩みを持っていた…。ヨシタケシンスケさんの絵本はどれも心が和む絵で子どもも大人も楽しめます。上のお子さんが下のお子さんに読み聞かせしてあげられるような絵本です。

けんかのきもち



文：柴田愛子
 絵：伊藤秀男
 出版社：ポプラ社

一番の友達のこうたとケンカしたぼく。ケンカの気持ちは、お母さんにくっついて泣いても、一人で考えても、こうたが謝ってくれてもおさまりません。友達とケンカをした時の気持ちがダイナミックな絵と共にリアルに伝わってきて、共感できる子どもたちも多いと思います。



だめよ、デイビッド!

作・絵：デイビッド・シャノン
 訳：小川仁央
 出版社：評論社

見開きページいっぱいにくり広げられるデイビッドの「だめ」なことの数々。やんちゃなデイビッドは、泥まみれで家に入るし、お風呂では大暴れ、おもちゃは出しっぱなし、あげくのはてに大失敗。「だめよ!」と叱ってばかりのママですが、本当は…。母親の気持ちを代弁してくれる一冊です。



おおきくなるっていうことは

文：中川ひろたか
 絵：村上康成
 出版社：童心社

「おおきくなるっていうことは」のフレーズに続き、大きくなることできるようになることが、シンプルな文と絵でかき進められていきます。成長していくことについて、子どもたちなりに感じることができるようなあたたかい絵本です。



くだものなんだ

作・絵：きうちかつ
出版社：福音館書店

不思議な形のシルエットを見て、何のくだものかを当てる絵本です。ページをめくると答えのくだものがわかりますが、シルエットからはいろいろなものが想像できます。大人も想像しないような答えが、子どもたちから出てくるかもしれません。子どもたちに想像する楽しさと、身近なものの美しい形を発見する喜びを味わわせてくれます。



ぼく、だんごむし

文：得田之久
絵：たかはしきよし
出版社：福音館書店

小さな子どもに人気のダンゴムシ。でも、その生態はあまり知られていません。主食は落ち葉ですが、コンクリートや石も時々食べています。植木鉢や石の下がすみか。ボールのように丸くもなれるダンゴムシの生態を優しく、楽しく語っています。柔らかい色調の貼り絵からは命の温かさも伝わってきます。



おちばのしたきのぞいてみたら...

作：皆越ようせい
出版社：ポプラ社

落ち葉の下には虫がいっぱい。きれいな色・不思議な形の虫、小さな虫たちが落ち葉と一緒に生きています。落ち葉は虫たちのごちそう。その虫たちのうんちが土になり土の上には木が育ち、葉っぱをしげらせ、やがて葉っぱは落ち葉になって虫たちの上にふりつり…命が続いていくのです。



タテゴトアザラシのおやこ

写真：福田幸広
文：結城モイラ
出版社：ポプラ社

まん丸の黒い目に、真っ白でふわふわな毛皮のタテゴトアザラシの赤ちゃん。とってもかわいい赤ちゃんですが、なんと二週間でお母さんアザラシから独立しなければなりません。自然界の厳しさとともに、親子の愛情が凝縮された写真が印象的な本です。



さよならさんかく

文・絵：安野光雅
出版社：講談社

この本は、昔から全国各地で子どもたちに親しまれてきた、「さよならさんかく」のわらべうたを基にした絵本です。最後のページまでいったら、本をくりとさかさまにして最初のページまで戻っていけるおもしろい本です。本を使ったわらべうた遊びを通して、お子さんと一緒に時間を楽しんでください。



どうぞのいす

作：香山美子
絵：柿本幸造
出版社：ひさかたチャイルド

うさぎさんが作った「どうぞのいす」。最初に訪れたろばさんはどんぐりの入ったカゴを「どうぞのいす」に置くと昼寝をしまいます。その次にやってきたくまさんがとった行動とは？ 様々な動物たちが登場し、それぞれの「どうぞ」を考えます。



わんぱくだんの
かくれんぼ

作：ゆきのゆみこ
上野与志
絵：末崎茂樹
出版社：ひさかたチャイルド

公園でかくれんぼをするわんぱくだんの三人。いつの間にかそこは森の中。動物たちとかくれんぼが始まります。「もう、いいよー！」はりきってかくれると、あれ？そこはもとの公園にもどっていました。わんぱくだんのまわりに起こるドキドキ、ハラハラに夢中になれる絵本です。（「わんぱくだんシリーズ」の第一作目です。）



からすのパンやさん

作・絵：かこさとし
出版社：偕成社

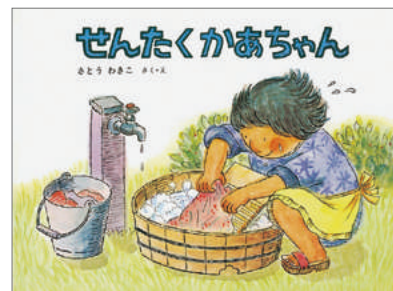
からすのパンやさんは、子育てしながら一生懸命パンを作りますが、お店がうまうまなくなってしまう。でも、子どもの友達がパンを買いに来てくれたことをきっかけに、大騒動に発展し、パンやさんは大賑わいになります。ページいっぱいに描かれた魅力的なパンを、読み聞かせをしながら楽しんでみてください。



バムとケロの
にちょうび

作・絵：島田ゆか
出版社：文溪堂

バムとケロは部屋を片付けて、ドーナツを作って、それから本を読むとしています。本をみつけにいくと、虫たちにじゃまされ簡単に本は取れません。ドーナツを使って、工夫してやっと本が取れました。バムとケロの温かい雰囲気と楽しい挿絵に優しい気持ちになれる絵本です。（「バムとケロシリーズ」の第一作目です。）



せんたく
かあちゃん

作・絵：さとうわきこ
出版社：福音館書店

たらいと洗濯板で、家中のものから、子どもたちや動物までなんでも洗ってしまう洗濯大好きなかあちゃん。空から落ちてきた雷さまも顔が消えるまでごしごし。新しい顔を描いてもらった雷さまは大満足。なんと翌日にはたくさんの雷さまが落ちてきました。かあちゃんの「よききた まかしときい」が爽快な絵本です。



くれよんの
くろくん

作・絵：なかやみわ
出版社：童心社

ずっと新品のままはいや。きいろくんが飛び出しました。次々にクレヨン達は箱を飛び出し、きれいな絵を描きます。最後になつたくろくんはできることがありません。しばらくするとみんなはけんかになってしまいます。そんな時、くろくんは大活躍します。お話をとおして、だれにでもいいところがあることを感じられます。



パンどろぼう

作：柴田ケイコ
出版社：KADOKAWA

おいしいパンを食べるのが大好きなパンどろぼう。ある日、「世界一おいしい」と書いてあるパン屋さんを見つけました。パンどろぼうは、パンに混ざって忍び込み、目当てのパンを盗み出します。期待に胸をふくらませ、一口食べると…？ぜひ、話の続きを読んでみてください。



11匹のねこ

作：馬場のぼる
出版社：こぐま社

11匹ののらねこたちは、みんな仲良く暮らしていますが、いつもおなかぺこぺこです。ある日、おじいさんねこに「湖に大きな魚がいる」と聞き、出かけていきます。みんなで助け合い、知恵を出し合って魚をつかまえようとしますが、果たしておなかいっぱいになれるのか…。力を合わせて頑張るねこたちのお話です。



いいから いいから

作：長谷川義史
出版社：絵本館

ある日、突然家にやってきたカミナリの親子。にもかかわらず、「いいからいいから」と、おもてなしをするおじいちゃん。カミナリにおへそをとられても「いいからいいから」。おじいちゃんのおおらかさに肩の力が抜けてしまい、思わず笑顔に！やさしい気持ちになれる絵本です。



がまんのケーキ

作・絵：かがくいひろし
出版社：教育画劇

いちごと生クリームたっぷりのケーキを前に、誘惑に負けそうなこいたろうくん。それを止めるかめぞうさんも、ついに巻き込まれてしまいます。けれど二人は大事なことを思い出して…。ケーキをめぐる会話が楽しく、思わず笑顔になります。そして、友達との約束の大切さにも自然に気づかせてくれる絵本です。



キャベツくん

文・絵：長新太
出版社：文研出版

お腹がすいてフラフラなブタヤマさんは、出会ったキャベツ君に「お前を食べる」と言います。しかし、キャベツ君が指し示した空には、キャベツ君を食べたために、鼻がキャベツになってしまったブタヤマさんが浮かんでいて…。キャベツ君を食べた色々な動物の姿と、ブタヤマさんのリアクションがユーモラスな絵本です。



ブレイクタイム

絵本の選び方 ②

30年、40年と長く読み継がれているロングセラーの絵本を読んでもらうことをおすすめします。国や時代を越え、多くの子どもたちに愛され、支持されてきた絵本には、子どもたちの心に深く残る普遍的なものがあります。ストーリーは面白く、絵には時代を経てもなお今の子どもたちを魅了する力があります。一例ですが、このブックリストに載っている「ぐりとぐら」(なかがわりえこ・おおむらゆりこ/福音館書店)は初めて発行されたのが1963年で、200回以上増刷されています。絵本の最後のページに、発行日と印刷された回数が記されていますので、参考にしてください。このようなすぐれた絵本を読んでいくうちに、親も子どもも選ぶ力がついてくると思います。ただ、よい絵本であっても、子どもが興味を示さないということはよくあります。子どもの好みや興味に合っていないとき、その子の成長に合っていないときなどです。まずは、子どもの大好きな世界が描かれている絵本から読んであげてください。子どもをよく見ていると、何に興味を持ち、何が好きなかがよく分かりますよ。



しょうぼうじどうしゃ
じぶた

作：渡辺茂男
絵：山本忠敬
出版社：福音館書店

大きくて立派な働きをするはじご車や高圧車たちと一緒にいるじぶたは、古いジープを改良した小さな消防自動車で、みんなからちびっこあつかいされていました。ある日、山の中で火事が起こり、出動を命じられたじぶたは、大活躍したのです。小さくても活躍するじぶたの姿にスカッとした気持ちになる絵本です。



だいじょうぶ
だいじょうぶ

文・絵：いとうひろし
出版社：講談社

おじいちゃんとの散歩でたくさんのもとの出会い、成長しながら世界を広げていく小さい頃のぼく。成長とともに、徐々に不安もでてきます。そんなとき「だいじょうぶ。だいじょうぶ。」というおじいちゃん言葉がぼくを温かく支えてくれます。生きていくための大切なことを教えてくれる、心にしみる絵本です。



パンダ銭湯

作：tupera tupera
出版社：絵本館

ここはパンダのためのお風呂屋さん。なんとパンダ以外の入店はお断り。やってきたパンダの親子は、服を脱ぎはじめ…。えっ！パンダにそんな秘密が!?パンダの新しい一面が発見できます。ぜひ、お子さんと一緒に、その秘密にせまってみてください。



まゆとおに

文：富安陽子
絵：降矢なな
出版社：福音館書店

やまんばの娘、まゆは、ある日雑木林で鬼に会いました。鬼は、まゆを食べるため大鍋にお湯を沸かし始めます。それを知らないまゆは、薪の山をつくったり、かまどの石を積んだりして手伝います。お湯が沸くと、お風呂が沸いたと勘違いしたまゆは、「お先にどうぞ」と鬼を鍋に放り込んでしまいます…。まゆと鬼の結末はいかに。



もりいちばんの
おともだち

作：ふくざわゆみこ
出版社：福音館書店

小さなものが好きな、森で一番大きなクマさんと、大きなものが好きな、森で一番小さなヤマネくんのお話。甘いものが大好物の二人は、ある日ケーキ屋さんの店長に花の苗をもらいました。クマさんは小さな苗を、ヤマネくんは大きな苗を選んで、一生懸命育てました。すると…。読み終わるとほっこりした気持ちに包まれる絵本です。





くんちゃんの
だいいりょこう

文・絵：ドロシー・マリノ
訳：石井桃子
出版社：岩波書店

南へ渡る鳥に出会った子ぐまのくんちゃんは、自分も南の国へ行ってみたくになります。鳥たちを追って丘を駆け上がると忘れ物に気づき、また丘を駆け下りて、上ってと何度も繰り返すうちに…。幼い子の心、言動がほほえましく描かれ、それを温かく見守るお父さん、お母さんはすてきです。子育てのヒントになります。



スイミー

作：レオ＝レオニ
訳：谷川俊太郎
出版社：好学社

小さな黒い魚スイミーは、兄弟みんなが大きな魚に飲み込まれ、ひとりぼっちに。そんなスイミーを海の愉快的動物たちが癒してくれます。そして、スイミーは、海を旅して出会った仲間と大きな魚に立ち向かいます。勇気を持つことや仲間と協力することの大切さに気付かせてくれる魅力的な作品です。



ぐるんぱの
ようちえん

作：西内ミナミ
絵：堀内誠一
出版社：福音館書店

一人ぼっちで暮らしてきたぞうのぐるんぱが働きに出かけます。いろいろなところで働きますが、つくるものが大きすぎて失敗ばかり。そんなとき、子どもがたくさんいるお母さんに出会い、子どもたちの世話を任せられます。そこでぐるんぱがつくったものは…。失敗は成功のもとであることがよくわかる作品です。



どろんこ ぶた

作：アーノルド・ローベル
訳：岸田衿子
出版社：文化出版局

農家のぶた小屋に住んでいるこぶたは、静かにずずーっと、どろんこに体をうずめることが大好きです。ところがある日、おばさんが掃除を始め、ぶた小屋もきれいにされてしまいます。こぶたは怒り、どろんこを求め家出します。やがて、大きな町にたどり着いたこぶたは…。「価値観」について考えることができる一冊です。



ぼく おかあさんの
こと…

作・絵：酒井駒子
出版社：文溪堂

お母さんなんか嫌い！だって、お休みの日はいつまでも寝てるし、「はやく、いそいで！」って言ってばかりだし。ぼくとは結婚できないって言う。でも、本当は、お母さんが大好き。大人になると忘れてしまう、お母さんに向けた素直な子どもの気持ちに心があたたまります。



読み聞かせのヒント

1 年齢ごとの絵本の選び方

0・1歳から

あかちゃんに、やさしい笑顔で、温かい言葉を十分に掛けてあげましょう。わらべ唄やこもり唄、リズムのよい童謡を唄ってあげるのもいいですね。このようなスキンシップが親子の信頼関係を育み、絵本の読み聞かせを楽しむ土台となるのだと思います。あかちゃんは、実際に見て知っているものが絵本の中に描かれていると興味を示します。絵は、はっきり、明るく、温かく描かれ、リズムのある言葉で語られているものがよいでしょう。

2・3歳から

親の膝の上で、じっと聞けるようになり、簡単なストーリーを楽しめるようになってきます。言葉の獲得が目覚ましい時期です。リズムのある言葉で語られているものや、繰り返しがおもしろい絵本が喜ばれるでしょう。

4・5歳から

理解力や想像力が豊かになり、さまざまなジャンルの絵本を楽しめるようになってきます。昔話に強い関心を示す時期です。昔話には、楽しいお話の背後に、生きるための知恵や勇気などが語られていますので、たっぷりと読み聞かせてあげましょう。

また、外遊びなどが活発になる時期でもあります。子どもが、身近な自然の中で、驚きや発見をしたり、不思議だなと感じたりしたときに、親子で一緒に科学絵本を楽しむのもいいですね。子どもの好奇心や感じる力を育ててあげましょう。命の重みがしっかりと伝わる良質な科学絵本がたくさん出版されていますよ。



2 読み方のコツ

ゆっくり、あせらず、ふつうに、そして心を込めて。いつものお母さんやお父さんの声で、ごく自然に、ストーリーの流れに乗って読んであげればよいでしょう。親が楽しい気持ちで読んでいると、その楽しさは子どもに伝わっていきますよ。こういう読み方がベストというのはありません。お母さんやお父さんの生の声で読んでもらうこと、ただそれだけで、子どもにとっては最高の読み聞かせなのですから。読み終わった後に感想を求めるのは、よいことに思えません。子どもは楽しい物語の世界に浸り、余韻を味わっているのですから、そっとしておいてあげましょう。さまざまな感想や受け止め方があっていいのです。読み聞かせは、楽しみ以外の何ものでもないのですから。



3

読み聞かせ Q&A

Q あかちゃんへの読み聞かせは、どのくらいから始めたらよいですか？

A 6ヶ月～お誕生日前後くらいに、あかちゃんの関心を見ながら始めてみてください。でも、あせらずに、お母さんやお父さんが読んであげたいと思ったときに始めるとよいでしょう。

Q あかちゃんに読んであげても、あまり反応しないのですが？

A あかちゃんが積極的に絵本に反応し始めるのは、1歳前後くらいからです。表情に出さなくても、手足をバタバタさせて体で喜びを表現していることもありますよ。心地よいリズムの言葉の絵本や、わらべ唄の絵本などを読んであげてみてください。

Q 同じ絵本ばかり読みたがるのですが？

A どうぞ、何度でも繰り返し読んであげてください。大好きだから「もう1回読んで！」なのです。ストーリーが分かっているから安心するということも考えられますよね。また、繰り返し読んでもらいながら、絵本の絵をすみずみまで楽しんで、新しい発見をしているのかもしれないですよ。

Q 動き回っていて、じっと聞いてられないのですが？

A 0歳から2歳くらいのあかちゃんは、好奇心がいっぱいで動き回るのが当たり前、心配ありませんよ。動いていても、耳だけは、ちゃんと聞いているということもありますし、「じっとして聞きなさい」などと言わずに温かく見守ってあげましょう。お母さん自身が、あせらず、ゆったりした心で。

Q 読んでいる途中で、子どもがページを先にめくってしまったたり、何か質問をしたりするときは？

A 親子の読み聞かせで大事なものは、双方がリラックスして楽しい時間を共有することです。先にページをめくってしまったとしても心配ありません。楽しい読み聞かせを重ねるうちに、だんだん順を追って楽しめるようになっていきますよ。また、分からないことがあると先に進めないという性格のお子さんが、途中で質問をしてくるのかもしれませんが、そういう時は、無視をせず、短く答えてあげてから読みすすめるとよいでしょう。



0・1歳から

だるまさんが	3
いない いない ばあ	3
くっついた	3
いろいろ ばあ	3
かおかお どんなかお	3
ぺんぎんたいそう	3
ごぶごぶ ごぼごぼ	4
たまごのえほん	4
ぴよーん	4
じゃあじゃあびりびり	4
おむつのなか、みせてみせて!	4
くだもの	4
ぼん ちん ぱん	5
おべんとうバス	5
もこ もこもこ	5
がたん ごとん がたん ごとん	5
かん かん かん	5
どうぶつのおかあさん	5
ととけっこう よがあげた	6
おつきさまこんばんは	6
ノンタンぶらんこのせて	6
おひさま あはは	6
どんどこ ももんちゃん	6

2・3歳から

きんぎょが にげた	7
へんしんトンネル	7
ぜったいにおしちゃダメ?	7
うずらちゃんのかくれんぼ	7
たまごのあかちゃん	7
おおきなかぶ	8
はみがきれっしやしゅっぱつしんこう!	8
ぷくちゃんのスてきなぱんつ	8

しろくまちゃんのほっとけーき	8
あおくんときいろちゃん	8
でんしゃは うたう	9
せんろはつづく	9
ぐりとぐら	9
わたしのワンピース	9
はらぺこあおむし	9
めつきらもつきら どおん どん	10
たまごにいちゃん	10
ばけばけばけばけ ばけたくん	10
14ひきのひっこし	10
わにわにのおおけが	10
ぞうくんのさんぼ	10
しろくまのパンツ	11
そらまめくんのベッド	11
てぶくろ	11
ねずみくんのチョッキ	11
のせて のせて	11
ぼくは あるいた まっすぐ まっすぐ	11
もりのおふろ	12
ぼんたのじどうはんばいき	12
だるまちゃんどてんぐちゃん	12
こんたのおつかい	12
しんせつなともだち	12
こわくない こわくない	12

4・5歳から

100かいだてのいえ	13
どうぶつサーカス はじまるよ	13
ねこはるすばん	13
三びきのやぎのらがらどん	13
おおかみと七ひきのこやぎ	13
さんまいのおふだ	13
ちょっとだけ	14

はじめてのおつかい	14
おしっこちょっぴりもれたろう	14
けんかのきもち	14
だめよ、デイビッド!	14
おおきくなるっていうことは	14
くだもの なんだ	15
ぼく、だんごむし	15
おちばのしたをのぞいてみたら…	15
タテゴトアザラシのおやこ	15
さよなら さんかく	15
どうぞのいす	15
わんぱくだんのかくれんぼ	16
からすのパンやさん	16
バムとケロのにちようび	16
せんたくかあちゃん	16
くれよんのくろくん	16
パンどろぼう	16
11ぴきのねこ	17
いいから いいから	17
がまんのケーキ	17
キャベツくん	17
しょうぼうじどうしゃ じふた	18
だいじょうぶ だいじょうぶ	18
パンダ銭湯	18
まゆとおに	18
もりいちばんのおともだち	18
くんちゃんのだいいょこう	19
スイミー	19
ぐるんぱのようちえん	19
どろんこぶた	19
ぼく おかあさんのこと…	19



このブックリストをみて
気に入った本をみつけたら
ぜひ、市町村の図書館などで
探してみてくださいね。



生涯を通じて

学ぶ・楽しむ・考える「読書」の推進



群馬県読書活動推進のページはこちら
https://www.pref.gunma.jp/03/x38g_00068.html

編集・発行 群馬県教育委員会生涯学習課

電話 027-226-4661

E-mail kigakushu@pref.gunma.lg.jp

令和5年8月発行